

冷夏である。農作物は大変だ。大雪山系の旭岳や黒岳には初雪だという。が、ここ数日の暑さはどうだ。最高気温を記録すると幻の初雪になるかも知れぬ。

「朔東から」の第 54 号及び第 76 号において、魚魂碑、馬魂碑なるものの存在について簡単に紹介した。それ以降、管内のこれら所謂「獣魂碑」が気になっていた。

この様な獣魂碑が建立されるのは、仏教の教えに基づくものだろう。良く引き合いに出されるのが、キリスト教国家の「謝肉祭」と「獣魂祭」の違いである。

食肉文化の長いキリスト教文化圏では、復活祭前の 40 日間、荒野で修行したキリストを偲んで主に獣肉を絶ち懺悔する四旬節前の 3～7 日間、お肉をはじめとして飽食と笑いの祝祭を行った。この最終日がカーニバル(carnival)である。カーニバルとはラテン語 *carne* *levare* 「肉食禁止、肉よさようなら」を語源とする。邦訳では「謝肉祭」である。リオやニース、ニューオリンズのカーニバルは観光化されて、本来の意味や形式から程遠いとも言われるが・・・

日本(仏教圏という用語があるかも知れないので)では、馬魂、犬魂、魚魂等の獣魂碑を建立して供養したり、時には針供養・筆供養・人形供養など人獣以外のもの、生活の中で使用した物への愛着・感謝を込めての供養の儀式も今尚根強く行われている。この様な供養のしきたりは欧米等に比しての大きな特色だ。その対象は、人獣虫魚等の生物たると道具たるとを問わなかった。それらを「供養、慰霊」し時には「祭祀」を日本人は長い間実施してきた。これが日本民族が営々として受け継いできた習俗であり伝統なのだ。

獣魂碑(畜魂碑)を建立する所以を「自分等は牛や馬の命を貰って生きてきたのだから、牛や馬に感謝している、その思いを込めた」と説明しているが、日本的発想である。この様な思いは、獣等は人間に食べられる為に生まれてきたとする肉食文化圏の者には理解し難いのではなかろうか。

さて、長々と説明が長くなった。管内の獣魂碑等について承知しているだけを紹介する。まだまだ沢山ある筈だが、小生の調査能力を超える。情報提供いただければ、幸いである。



- ① 馬魂碑 : ある碑文に曰く「夫レ馬ノ性タルヤ従順ニシテ能ク人ニ馴レ重キヲ任(にな)イテ遠キニ致シ以テ天下ニ利シ斃レテ後已ムノ概有リ 是ノ故古来軍旅ニ重用セラル 百戦沙場ニ人ト心ヲ一ニシ縦横ニ馳突シ汗血地ニ塗ミレ大功ヲ建ツ真ニ偉ト謂ウベキ也 而シテ其ノ斃ルルヤ人絶エテ弔ウコト無ク遊魂帰スル処ヲ知ラズ」と。

慰霊馬像は、靖国神社、新潟、上越、彦根に、慰霊碑は旧騎兵学校や旧士官学校にある。戦前・戦中・戦後と建立の時期も建立者も違うが、「戦没軍馬鎮魂録」に掲載されている写真は優に百数十に及ぶ。内北海道は、旭川護国神社「殉役軍馬之碑」、札幌旧月寒陸軍墓地に「軍馬忠魂碑」がある。管内では、軍馬補充部(全国で8個支部あって、管内には、

釧路、十勝、根室の3個支部があった。) 関係の碑もある。尚、馬魂碑ではないけれども別海町拓真四叉路には軍馬補充部の碑がある。(朔東から第56号を参照)

- 軍馬補充部釧路支部関係の「馬頭碑」：白糠町坂之丘にあったが、戦後町内の寺に移設・再建された。
- 馬塚：帯広市内仏弘寺境内 十勝開発に多大な貢献をした十勝監獄の受刑者が使役した農耕馬や看守用の馬などが、苦難の開拓作業において多数斃れた。この霊を慰めるべく、大正5年、木島典獄が刑務所墓地に馬塚を建立した。この馬塚を仏弘寺住職が、開拓労馬の供養をすべく払い下げを受け境内に移設した。
- 豊頃町 (存否を含め確認出来ず)

② 馬頭観音(観世音)：馬頭観(世)音菩薩は、サンスクリット hayagriva 名の訳。馬頭明王とも言い、六観音、八大明王の一つである。衆生の煩惱を食い、馬頭人身が人々の後生を願うものであると信じられている。日本では余り馴染みはなかったが、近世以降、馬頭を頂く形像と六観音信仰で畜生道を救うとされる其の性格によって、民間における馬の守護神として尊崇されるようになった。神が馬に乗って降臨するという民間伝承の如く霊界とこの世を結ぶ神的動物とされ、馬頭観音信仰は古来の馬神と仏教の馬頭観音が習合したものであると言われる。苦難の開拓に従事し或いは軍馬として徴用されて、不慮の死を遂げた馬を供養し、その霊を慰め、且つ感謝するものとして、民間においては、馬頭観音が信仰された。

- 馬頭観世音菩薩： 帯広市大正神社前 昭和10年建立
- 馬頭観音像： 幕別町西和、依田近隣センター、碑文では紀元2,600年に建立されたとある。が、皇紀の誤りであろう。昭和15年(1940)建立である。

③ 畜魂碑：碑文に面白い表現あり。「(前略)獣畜、生ある時は粗食に堪え、常にその労力を耕作に或いは輸送に捧げ、排泄せるものは肥料となり地味は肥沃し作物の生育を促し、又牛乳をして幼児の人工哺育に与え更に病弱者の栄養と健康保持に貢献し生体を利用しては伝染病予防薬を生産せしめ死して蛋白資源として欠くべからざるものとなり日常の食膳に他に毛・骨・皮等に至るまで、広く人類社会に利用せしむ。その労たるや多くその効亦大なり。然しながら、獣畜が病に斃れ、又家畜処理場においてその命を捧げしことを憶うとき(以下略)」

- 帯広市内西24条南5丁目の食肉加工場 昭和52年建立
- 幕別町相川在十勝家畜市場、昭和60年建立
- 家畜感謝の碑 川西農協前庭 開拓労馬等の畜霊の供養と謝意を表すべく川西酪農振興会が昭和57年建立

④ 犬魂碑

- 網走保健所が建立(1979年9月) 細部不明

⑤ 魚魂碑

- 豊頃町：湧洞沼：巨大なイトウが自らの死をもって沼の枯れるのを防いだとの

伝説に基づいて建立された。

- 厚岸町： 国泰寺（蝦夷三官寺の一つ、朔東から第 51 号参照）境内
- 標津町・別海町： 尾岱沼漁協前
- 羅臼町： 漁協前

⑥ 獣魂碑

- 十勝開拓獣魂碑合祀碑：帯広市内仏弘寺境内 仏弘寺住職が、十勝開拓の為に斃れた全ての獣霊を合祀すべく十勝開拓獣魂合祀碑の建立を思い立ち、広く賛同を募って、昭和 30 年建立した。(3,500 頭の牛馬が合祀)
- 獣魂碑 帯広市が食肉センターを運営していた当時の昭和 40 年に建立されたが、食肉流通センター設立に伴い、十勝畜産公社に遷座した。

⑦ その他

- 包丁塚鳥魚供養の碑 帯広市護国神社境内 昭和 58 年建立

(参考：百科事典、「温故知新 十勝の石碑」(菅原慶喜著)、百年記念館からの情報提供、「戦没軍馬鎮魂録」(偕行社発行、軍馬慰霊祭連絡協議会編集)、各種HP etc)